

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 3月がん看護勉強会	
事例報告者 : 林原 健治	
所属 : 東北大学大学院がん看護学分野	
テーマ : AYA 世代の小児がん経験者の就労に関する現状と課題	
担当者氏名 : 佐藤 富美子 教授	所属 : 東北大学大学院がん看護学分野
内線 : 7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日 :	
平成 31 年 3 月 25 日	
2. 開催場所 :	
東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野 :	
AYA 世代、就労支援、小児がん看護、がん看護	
4. 対象者 :	
がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数 : (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
大学教員 2 名、大学院生 3 名(がん看護 2 名、小児看護 1 名)、医療関係者 2 名(看護師 2 名) 計 7 名	
6. 成果 :	
<p>先月まで2ヶ月に渡り、米国における急性期からフォローアップ時期に渡る米国の地域医療システムに関する報告があった。この度は、フォローアップ支援に関連し、小児看護の立場より、最新の研究知見に基づいた AYA 世代の小児がん経験者の特徴及び就労に関する課題について報告があった。</p> <p>小児がんは主に血液腫瘍、胎児性腫瘍、肉腫などによるが約 70~80%が治癒する。小児がん経験者に対する現在の課題は、成人期への移行期支援の充実であり、小児慢性特性疾患児童成人移行期支援医療モデル事業や小児慢性特性疾患治療研究事業などが推進されてきていることの報告を受けた。</p> <p>報告を基に、AYA 世代の就労に関する看護援助についてディスカッションを行った。AYA 世代が自律して社会に適応していくためには、患者の認知などを含めた能力や晩期障害や2次がんのリスクなどの身体的特徴を踏まえ、就労士などの支援を得ながら患者の適性に合った就労へつなげていく必要性が示唆された。また、小児がん経験者は、病状理解が乏しい傾向にあるとのことから、意思決定支援や患者自身のセルフマネジメント獲得支援が重要になることを共有した。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

